

平成27年度学生論文賞
第1次審査 事前オリエンテーション

11月11日（水）14:30～
470教室

学生論文賞実施委員会

1

事前オリエンテーション

- ◆本日の配布物
 - 説明スライド（このスライド）の縮刷
 - 第1次審査タイムテーブル
 - 第1次審査シート
 - 成功するプレゼンテーションのための心得

- ◆その他注意事項

2

論文概要について

◆ 論文概要受理について

- 特に連絡がない場合は受理されている。
 - 題目, 概要, 著者氏名のいずれかまたは複数の記載がないものに修正を指示している.
 - 多少のレイアウトの変形等については修正を求めている.

◆ 審査員への配布

- 事務局が原稿を等倍でコピーしたものを, 全教員に事前配布する.

◆ 「論文題目」の変更について

- 第1次審査前の変更は原則不可 (混乱を避けるため) .
- 第1次審査後の変更は可. ただし論文の中身が大幅に変更され, 同一の論文と認められないと判断された場合は審査対象外となるので注意.

3

第1次審査会(プレゼンテーション)について

◆ 日時

- 11月18日(水) 14時30分～

◆ 会場

- A会場(171AL), B会場(172AL),
C会場(174AL), D会場(274AL)

◆ タイムテーブル

- 別紙資料参照
- 持ち時間 → 発表7分, 質疑2分 計9分

◆ 審査員その他

- 申込時の審査員希望は当該教員に伝達する.
- 事務局で人数等のバランス等のある程度調整する.
- 発表スライド(使用する場合)に指導教員・所属ゼミを記載しないこと.

4

口頭発表に関する注意(1)

◆発表用資料（スライド等）

- スライドの使用は必須ではない。
- スライドを用いる場合、MS PowerPoint (win)で表示確認済みのものに限る。
 - PowerPointで作成した場合は、バージョンの互換性がある保存方法で保存して、提出すること。
- 18日（当日）正午までに学生センター学籍担当窓口へ提出
 - **ファイル名を「発表番号.ppt」とすること。** → 例) A-1.ppt
 - USB対応のメディアで持参するのが望ましい。
 - メール添付でも受け付ける。ただし文字化けや書式の乱れなどについては事務局は責任を負わない。
 - 送付先：kaizen@office.otaru-uc.ac.jp
- 分量は任意（ただし情報過多に注意）

5

口頭発表に関する注意(2)

◆その他補助資料

- 補助資料の配付・提示は自由。
- 使用する場合は各自で準備・配布すること。
- 他の発表者に影響がないように配慮すること。

◆時間管理

- **持ち時間を厳守**し、司会者の指示に従うこと。
- 交代に要する時間は特に設定していないので、発表順を良く確認し、自分の前の発表時には近くで待機し、発表終了後は速やかに降壇すること。

◆過去のコメントより

- 前置きや背景が長すぎ、要点が分からない。
- やったことは分かるが、目的が分からない。
- 研究計画の発表会ではない。分析・研究の結果を見せて欲しい。
- どの部分が、この研究の貢献なのか分からない。
- 演出が過剰。研究の中身に注力して欲しい。

6

成功するプレゼンテーションのための心得

7

背景色1 青色

小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学

背景色2 橙色(オレンジ)

小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学

背景色3 薄黄色

小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学
小樽商科大学

8

字の大きさ及び字体

小樽商科大学学生論文賞 (MS Pゴシック 18ポイント)

小樽商科大学学生論文賞 (HGP創英角ポツ体 18ポイント)

小樽商科大学学生論文賞 (MS Pゴシック 24ポイント)

小樽商科大学学生論文賞 (HG丸ゴシックM-PRO 24ポイント)

小樽商科大学学生論文賞 (MS Pゴシック 28ポイント)

小樽商科大学学生論文賞 (DF特太ゴシック体 28ポイント)

小樽商科大学学生論文賞

(MS Pゴシック 36ポイント)

小樽商科大学学生論文賞

(HG正楷書体-PRO 36ポイント)

9

字数および行数

悪い例

本報告書「ヘルメスの翼にー小樽商科大学FD活動報告書ー第2集」は、平成15年度におけるFD専門部会の活動をまとめたもので、また平成15年度に実施した「授業改善のためのアンケート」の分析結果の報告書も兼ねています。FD活動を通じてより質の高い教育を実現するために、本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育開発センターにいただければ幸いです。

FD専門部会は教育課程改善委員会のもとに設置された専門部会で、本学におけるFD活動の実施主体として平成12年度より活動を続けてきました。本学におけるFD活動を組織的に展開するために、教育課程改善委員会を発展的に解消しその機能を継承する教育開発センター(付録3)が平成16年4月に設置され、その中に設けられた学部・大学院教育開発部門のもとにFD専門部会がおかれることになりました。学部と大学院

良い例

本報告書「ヘルメスの翼にー小樽商科大学FD活動報告書ー第2集」

平成15年度におけるFD専門部会の活動をまとめたもの

平成15年度に実施した「授業改善のためのアンケート」の分析結果報告書

本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育開発センターにいただければ幸いです。

10

審査について

◆審査の基準等に関する注意

- 審査シート（別紙）の項目をよく意識すること。
- 「プレゼンテーションの技術」項目は、別集計されベスト・プレゼンテーション賞の選定のみに用いられる。

◆集計方法

- 審査項目ごとに最大値と最小値を除いた平均値を算出し、項目（1）～（4）を合計する。
- 第1次審査と第2次審査の得点は、40% 対 60%で集計される。

◆第1次審査結果の公表について

- 12月4日（金）にホームページ等で公表

11

注意事項

◆論文概要，発表用スライドは「学生論文賞」事業の資料として保存します。

◆参考資料として，公開することがあります。

◆その他は各自で判断してください。

◆不明な点は事務局へ。

- 教務課：佐々木（学生センター学籍担当窓口）
kaizen@office.otaru-uc.ac.jp

12